

1. 職名・氏名 教授 北村知之

2. 学位 学位 文学修士、専門分野 美学美術史学、授与機関 京都大学大学院、
授与年月 昭和58年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 美学（2単位）1、2、3年生（2015年度, 2017～2019年度）
②内容・ねらい 美学の基本的問題や基礎的概念について説明し、人間にとっての美的問題の重要性を認識させると共に、美的問題について学生自らが考える機会を提供する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 画像資料をスライドで見せることによって理解を助けるとともに、学生の集中力を維持するよう努めた。また板書事項は、画像と組み合わせる形で、パワーポイントで提示。 毎回アクションカードを提出させ、内容についての学生の反応や理解度を確認し、質問などがあれば、次回に回答した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 美術史（2単位）1、2、3年生（2013～2019年度）
②内容・ねらい 古典的な西洋美術の名品に親しむとともに、それらが形成された歴史的な文脈を理解することによって、美術と歴史との密接な関係を認識する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 毎回、多くの画像資料をスライド形式で提示した。報告者が現地で撮影した写真なども交えて、より臨場感のある資料提示を行った。 配布プリントは、キーワード部分を空白とし、学生自身が書き込むことによって完成させるという形式をとった。 毎回アクションカードを提出させ、内容についての学生の反応や理解度を確認し、質問などがあれば、次回に回答した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 芸術学（2単位 毎年度開講）1、2、3年生（2007年度以前～2019年度）
②内容・ねらい 近代美術を主として取り上げながら、今日における芸術の意味について考えるきっかけを与える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 多数の画像教材を使用して一級の芸術作品を見せることにより視覚的にも飽きのこない講義となるよう工夫した。配布プリントは、空白箇所をもうけ、学生が書き込んで完成させるという形式をとった。 毎回アクションカードを提出させ、内容についての学生の反応や理解度を確認し、質問などがあれば、次回に回答した。
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 芸術学特殊講義（2単位）2年生以上（2014年度, 2016年度）
②内容・ねらい 日本映画史の概観。特に昭和初期から20世紀末にかけての映画の潮流を把握し、当時国民的な知名度のあった監督・俳優・作品について具体的認識を得る。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 テキストとしてプリントを用意し、それに対応したパワーポイントのスライドを用意し、動画も活用した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養特講（研究の世界）（2単位）1、2年生（2016年度, 2017年度）</p>
<p>②内容・ねらい 2016年度から新規開設した学教センター所属教員によるオムニバス講義であり、大学教員の研究活動がどのようなものかを知らせるとともに学問研究の面白さを知ってもらう。北村は本講義のオーガナイザーの1人として全体の取りまとめに携わった。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 硬くなりがちな講義において学生たちが質問や意見を発しやすい雰囲気作りを心がけた。教員紹介において使用したスライドにおいても各教員の多面性を提示するようにした。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 日本の文化と社会（2単位）1、2、3年生（2018～2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい 学術教養センター教員によるオムニバス講義であり、日本の文化と社会について多様な角度から考察することにより、主題についての広い視野を学生に獲得させる。2018年度からのものは、『もののけ姫』を切り口にして多様な日本文化を考察するが、宮崎アニメの芸術学的意義を論じ、映画の特性を理解させることを目指した。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 パワーポイントのスライドに、動画を多数取り込み、内容をより視覚的かつ直接的に理解できるようにした。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 比較文化論（2単位）1、2、3年生（2018～2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい 世界各地をフィールドにしている学術教養センター教員によるオムニバス講義であり、個々の国や地域について多様な角度からアプローチする姿を示して、学生たちの目を世界に向けさせる。もって学生たちの視野を広める。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 報告者は本講義の企画と運営責任者として、各回の担当講師の一方的な話に終始しないよう授業進行に積極的に参加した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 導入ゼミ（1単位 毎年前期開講）1年生（2009～2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい 2009年度より始まった1年前期の必修ゼミであり、少人数で行われる大学教育への導入的な授業である。2019年度は「ヨーロッパの都市と芸術」というテーマでヨーロッパの地理・歴史・文化財に目を向けながら、資料調査、文献目録作成、書評作成、パワーポイントによるプレゼンの実演など多様な課題を課して、大学での勉学の基礎を学ばせた。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 少人数ということもあり、個々の学生との連絡を密にして、単位の取得計画や勉学の状況などについて細かく指導した。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（1単位 後期期開講）1年生（2009～2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい インターネット上の英語サイトの中から、著名な映画作品についてのテキストを選び、それをAI翻訳させ、両者を比較し、学生に議論させた。ネット上の自動翻訳は日々進化し、現在実用に耐え</p>

<p>るレベルに達しつつあるが、それでも多くの誤訳が見られる。そこに注目させることによって、学生の構文意識を高めることを目指した。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ネット上の英文サイトにアクセスする学生は自動翻訳を利用していると思われる。英語の実用性という観点から、学生にとってきわめて有用な素材をテキストに選んだ。</p>
<p>①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 学術ゼミ（2単位×2 毎学期開講）2，3，4年生（2007年度以前～2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい 知的向上心旺盛な学生を対象として、いくぶん哲学的な文化論のテキストを講読しながら、要約の作成、質疑応答を繰り返して、読解力・思考力・表現力を向上させることを目指している。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 この授業には、向学心に溢れた2年生から4年生まで上下3学年の学生が集っており、本学の他の授業では経験できない授業形態となっている。学年の上下で良い効果を互いに及ぼしあっている。</p>
<p>(2)非常勤講師担当科目</p>
<p>①担当科目名（単位数） 開講学校名 西洋史概説（2単位）滋賀県立大学（2008年度～2019年度）</p>
<p>②内容・ねらい 西洋美術を古代から近代まで概観することを通じて、具体的な形で西洋文化についての造詣を深める。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ノート用の空白部を設けたテキスト冊子を用意した。学生はこのノートを完成させるためにいっそう講義に集中していた。</p>
<p>④本学における業務との関連性 隣県の県立大学の事情を知ることができ、本学での諸業務についての改善を考える際に大いに参考になった。また受講生は人間文化学部の学生が主であり、本学の学生とは関心の在り方が異なっているが、これも教員としての視野を広げるのに役立った。</p>
<p>(3)その他の教育活動</p>
<p>内容</p>
<p> </p>

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
①論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日) 「質料的想像力とナルシシスムーバシュラールの質料的想像力研究」、『福井県立大学論集 第39号』, pp.45-59, 2012.8. 「空気と水の倫理学ー山本七平『「空気」の研究』における感性論ー」、『福井県立大学論集 第48号』, pp. 2017.1.
②著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名) 『岩波講座哲学7 芸術／創造性の哲学』(共著), 岩波書店, 2008.12. 「想像力と形」, pp.41-63. 「想像力」, pp.248-250. 「クローチェの『美学』」, pp.267-269. 『ようこそ県大研究室 vol.2』(共著), 福井県立大学, 2013.3. 「人間にとっての「美」とは何か」, pp.179-186.
③学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所))
④その他の公表実績 『ファカルティディベロップメント報告書 2016』 2017.3. 2.5「学術教養センター」執筆。 「おわりに」執筆。 『ファカルティディベロップメント報告書 2015』 2016.3. 2.5「学術教養センター」執筆。 3.「点検と課題」執筆。
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日))
学会での役職など(学会名) 学術雑誌『美学』、投稿論文の査読委員を継続
学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所)
(3)研究会活動等
①その他の研究活動参加(参加研究会名、調査活動名(期間)) F レックス FD チーム会議委員(2015.3~2017.7) 2015.9.9-10 福井県 FD 合宿研修会実施 2016.9.1-2 福井県 FD 合宿研修会実施 2018.12.12 県立大学教育研究フォーラム(英語教育について)での報告者

②その活動による成果

県内大学のFD活動の交流促進と個々の教員の教育力向上に寄与。

学生の英語力の問題点がフォーラムと教育研究委員会を通じて全学的に意識化された。

(4)外部資金・競争的資金獲得実績

(5)特許出願

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
①国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） 国立病院機構あわら病院臨床研究審査委員会委員(2006～現在) 越前陶芸公園指定管理者選定委員(2013～2018.3)
②国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間）
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間）
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間）
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等 （事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間）
⑥その他（名称、活動場所、活動期間） 2011.6.25 FBC ラジオキャンパスようこそ県大研究室「美と芸術に関する哲学的研究」 2014.5.24, 31 FBC ラジオキャンパスようこそ県大研究室「日本人の美意識(1), (2)」
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
①公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時） 2012.5.8～6.5 「イタリアの都市と美術」出講 2012.6.12 「県大ワールドツアー」出講 2017.6 「ケンダイ・ワールド・ツアー1」3回主催（県大） 2017.12 「ケンダイ・ワールド・ツアー2」3回主催（県大） 2018.6 「ケンダイ・ワールド・ツアー3」3回主催（県大） 2018.11 「ケンダイ・ワールド・ツアー4」3回主催（県大） 2019.6 「ケンダイ・ワールド・ツアー5」3回主催（県大） 2019.11 「ケンダイ・ワールド・ツアー6」3回主催（県大）
②社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） 2012, 藤島高校 SSH 研究アドバイザー 2013, 同上
③その他（名称、活動場所、活動期間）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間） 地区交通安全委員(2013～2015)

6. 大学の管理・運営

(1) 役職 (副学長、部局長、学科長)
(職名、期間)
(2) 委員会・チーム活動
(名称、期間) 入学試験副委員長 2011.4～2013.3 キャリアセンター協議会委員 2011.4～2014.3 キャリアセンター運営企画推進委員会委員 2013.4～2015.3 学術教養センター予算委員長 2013.4～2015.3, 2018.4～現在 教育学習支援チームリーダー 2015.4～2017.7 学術教養センターカリキュラム委員長 2015.4～2019.3 学術教養センターカリキュラム委員 2019.4～現在 学生支援委員 2019.4～現在
(3) 学内行事への参加
(行事名、参加日時)
(4) その他、自発的活動など
(活動名、活動内容、活動期間)